

飯島半十郎著
初學山林書
上
58/1

111
4
676
345
大日本教育會館
第三六三號
第一架一號

B 21

2536



飯嶋半十郎著
松野 礪 校

初學山林書 完

版權免許 明治十四年二月



書ハ、農家小學子弟ノ為メニ、著ス所ナリ、山林書ノ體裁ハ、先ツ氣候、地質ヲ説キ、植
物生理及ヒ計算術等ヲ説キ、而シテ樹林、伐木、
運搬、販賣等ヲ説クヲ法トス、然レトモ氣候、地
質、植物生理等ハ、詳細ニコレヲ説クト雖、蓋小
學子弟ノ能ク理解スル所ニアラサルナリ、因
リテ專樹林、伐木、運搬、販賣等ノ大略ヲ載スル
ノミ、識者其ノ意ヲ諒セヨ

一樹木ノ名ハ、強ヒテ漢字ヲ填セス、即檜、榊、檜等ノ類ノ如シ、

一専門語及ヒ俗字ハ、左傍ニ、直線ヲ引キ、右傍ニ、假名ヲ點ス、是レ小學子弟ノ讀ミ易ク、解シ易キヲ欲スルナリ、

編者 識

初學山林書卷上

目次

- 總論
- 杉說
- 松說
- 檜說
- 土地說
- 収種說
- 治畦說
- 下種說

假植説

移植説

洗伐説

伐木説

運搬説

収益説

初學山林書卷上目次

初學山林書卷上

飯島半十郎 著

松野 礪 校

○總論

山林ハ、國ノ財ナリ、材木薪炭コレヨリ生ス、實ニ家屋、建築諸器製造ヨリ、日用飲食ノ製ニ至ルマテ、用ヲ此ニ仰カサルハナシ、若夫山林瘦衰シテ、材木薪炭全ク盡クルニ至レハ、百工業ヲナスコト能ハス、萬民食ヲ製シ、寒ヲ防クコト能ハス、其ノ困窮ハ、蓋米穀ノ凶年ヨリモ甚

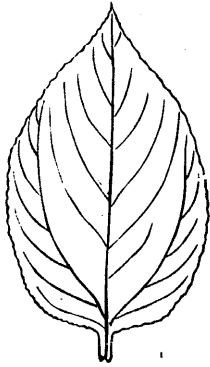
シカラン、コレ古来有志者ノ深ク憂フル所ニ
シテ、今日山林學ノ因リテ以テ興ル所ナリ、凡
山林ニ、二種アリ、一ハ天然ニシテ林ヲナスモ
ノ、是レナリ、名ツケテ天造林ト云フ、一ハ人工
ヲ用キテ、林ヲ樹ツルモノ、是レナリ、名ツケテ
人造林ト云フ、此ノ書載スル所ハ、即人造林ヲ
樹ツルノ法ヲ專トス、林中樹木ノ種類甚多シ
今コレヲ大別シテ二トナス、針葉樹トシ、潤葉
樹トス、其ノ中我國ノ氣候地質位置ニ適當シ
テ、最能ク生長スルモノハ、針葉樹ニシテ、杉、松

第一圖

針葉



潤葉



檜ノ三樹ヲ最トス、家屋
建築、器械製造専用ノ材
料タリ、樅、榧、榎、檜、杉等コレ
ニ次ク、又潤葉樹ニシテ、
檉、櫟ノ三樹ヲ最トス、
薪炭専用ノ材料タリ、櫟、
榎、樅等コレニ次ク、今コ
ノ専用樹木ノ林ヲ樹ツ
ル方法ノ大略ヲ舉ケテ、
以テ初學ニ示スコト、左

ノ如シ、

○杉説

杉ハ、針葉樹ノ一ニシテ、民間専用材ノ第一タリ、其ノ幹ハ、端直ニシテ、高サ十余丈、圍ミ二三丈ニ至ル、樹皮赤色ニシテ、層々疊ミテ厚シ、其ノ枝ハ、四出シテ稠密ナリ、其ノ葉ハ、短針ニシテ尖末最鋭ク、色常ニ緑ナリ、四月花ヲ發ス、大サ粟粒ノ如ク、同時實ヲ結フ、其ノ狀恰小鈴ノ如シ、秋季拆ケテ子落ツ、其ノ材質ハ、淡赤ニシテ、脂氣多ク、香氣アリ、其ノ脂最多クシテ質甚堅キモノ、俗呼ヒテ

コレヲ赤杉ト云ヒ、又脂少クシテ質脆キモノ、コレヲ白杉ト云フ、總テ此ノ材ハ、量目最輕クシテ、頗運搬ニ便ナリ、又木質軟ニシテ斧斤ヲ施スニ便ナリ、而シテ能ク水ニ耐フ、此ヲ以テ其ノ用甚廣シ、家屋、船艦、橋梁ヨリ、民間日用ノ器具ニ至ルマテ、皆コレヲ用ケルナリ、又此ノ樹皮ハ、檜皮ト同シク屋ヲ葺キテ、久シキニ耐ヘ、此ノ樹根ハ、醸酒家、酒中ニ投シテ其ノ氣味ヲ助ケ、葉ハ、粉末ニシテ抹香トシ、線香トス、實ハ、澀ヲ去リテ、豚ヲ養フベシ、神代杉ハ、古キヲ以テ名ツク、即杉樹ノ水



杉

第二圖

土中ニ埋没シテ、久シキ
ヲ經タルモノナリ、黒色
ニシテ、香氣アリ、好事器
具ヲ作りテ、以テ珍愛ス、
又俗間黒部杉ト稱フル
モノハ、杉ニアラズシテ、
鼠子樹ナリ、

○松説

松ハ、針葉樹ノ一ニシテ、
亦民間専用ノ材料タリ、

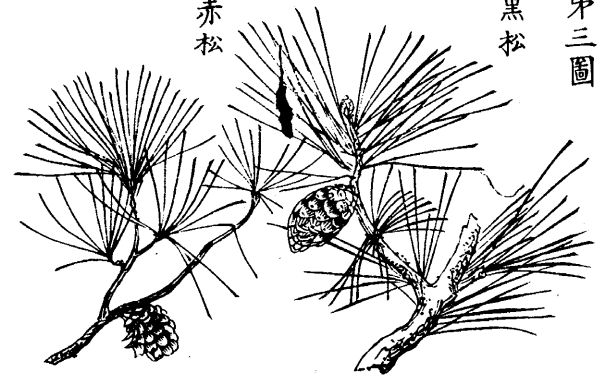
其ノ種類甚多シ、即黒松、赤松、落葉松、姫子松等ニ
シテ又五鬚松、海松アリ、其ノ他ハ、雅客庭園ノ愛
玩ニ供スルニ過キサレナリ、而シテ林ヲ樹テ、
晁益アルハ、赤松、黒松ノ二種ナリ、
黒松ハ、俗呼ヒテ雄松ト云フ、其ノ幹ハ、直立シテ
高サ十余丈、圍ミ二丈余ニ至リ、其ノ枝ハ、四出シ
テ恰車輪ノ如シ、其ノ葉ハ、一苞二針ヲ出ク、色
常ニ緑ナリ、四月雌雄二花、新芽ニ附シテ發ス、雄
花ハ、色黄ニシテ細微ナルコト、粉ノ如ク、雌花ハ
小圓ナルコト、粟粒ノ如クニシテ、其ノ下ニ附ス、

實ハ猪心ニ似テ鱗砌ヲナシ、秋季鱗拆ケテ、子落
ツ、材質ハ、白色ニシテ、中心ハ、淡紅色ヲ帶ヒ、脂氣
多クシテ、堅硬ナリ、故ニ能ク水ニ耐フ、其ノ効用
ハ極メテ廣シ、棟梁、船艦、橋梁等ノ料トナシテ、最
佳ナリ、其ノ他諸器械ヲ製スヘシ、薪炭トスヘシ、
松茸ヲ採リ、茯苓ヲ採ルヘシ、又松脂ヲ採ルヘシ、
又根ヲ堀リテ炬料トスヘシ、西國ニ於キテハ、葉
ヲ製シテ、卧褥ニ入レ、馬尾ニ代用セシムト云フ、
赤松ハ、俗ニ雌松ト云フ、其ノ幹ハ、高サ十余丈、圍
ミ二丈余ニ至ル、外皮赤色ニシテ、淡黒ヲ帶フ、其

第三圖

黒松

赤松



ノ枝ハ、四出シテ、柔軟ナ
リ、其ノ葉ハ、一苞二針、緑
薄クシテ、針尖黒松ニ比
スレハ鈍シ、花ハ、黒松ニ
同シク、實モ亦黒松ニ同
シケレトモ、球小ナリ、材
質ハ、色淡赤微黄ニシテ
賦氣多ク、彈力強クシテ
能ク久シキニ耐フ、黒松
ニ比スレハ、材品上等ニ

シテ、其ノ價モ亦貴シ、効用ハ、黒松ニ同シクシテ、
 其ノ木理ノ最美ナルモノハ、室内裝飾ノ料トナ
 シテ、頗佳ナリ、

○檜説

檜ハ、漢名扁柏、針葉樹ノ一ニシテ、民間専用材ノ
 上等品タリ、其ノ幹ハ、端直ニシテ、高サ十余丈ニ
 至リ、圍ミ二丈余ニ至ル、樹皮淡黒ニシテ、赭赤ヲ
 帶ス、其ノ枝ハ、四出シテ斜ニ地ヲ指ス、其ノ葉ハ、
 扁小ニシテ、鱗次ニ疊ミテ、末ニ至リ、色常ニ緑ナ
 リ、四月細瑣花ヲ發シ、實ヲ結ス、其ノ状小鈴ノ如

シ十月霜ニ遇ヒ、實拆ク、
 中ニ數子ヲ含ム、材質ハ、
 堅緻ニシテ、脂氣アリ、香
 芬アリ、木理直クシテ色
 白ク、微黄ヲ帯ヒ、中心淡
 紅ヲ帯ス、材量輕クシテ、
 頗運搬ニ便ナリ、其ノ効
 用ハ、船艦、橋梁、家屋ヨリ
 日用ノ器具ニ至ルマテ、
 用キテ宜シカラザルハ

第四圖 檜



ナシ、杯、椀ヲ製シ、扇ヲ製シ、笠ヲ編ミ、席ヲ織リ、薪炭トナシ、炬料トナシ、其ノ樹皮ハ、屋ヲ葺キテ能ク久シキニ耐ヘ、又諸器具ヲ製シ、繩索ヲ製ス、桓武天皇ノ朝、人々諸器具ノ輕クシテ且薄キヲ好ミ、檜ヲ以テ諸器具ヲ製スルコト、盛ニ世ニ行ハル、コレヲ檜物ト稱ヘ、其ノ工人ヲ檜物師ト云フ、後一條天皇ノ朝、六位以下ノ輩ハ、檜皮ヲ以テ屋ヲ葺クコトヲ禁セラレタリ、是レヨリサキ、檜皮葺キ盛ニ世ニ行ハル、其ノ工人ヲ檜皮師ト云フ、古來檜材ノ世ニ行ハル、コト、此ノ如クニシテ、

我邦人ノ常ニ貴重スル所タリ

○土地説

山林ヲ樹テント欲スル者ハ、必先ツ氣候、地質、位置ノ三者ヲ考究セスハアルベカラズ、コレヲ考究スルハ、實ニ山林學ノ要領タリ、氣候トハ、何ソヤ、四時、晝夜、寒暖、燥濕等ノ變化ヲ云フ、地質トハ、何ソヤ、壩土、粘土、砂土、石灰土等ノ類別ヲ云フ、位置トハ、何ソヤ、陰陽、向背、高低、遠近等ノ異同ヲ云フナリ、人能ク此ノ三者ノ理ニ通曉シテ、山林ヲ樹ツレハ、必林ヲナサ、ルノ地ナケム、然レトモ

此ノ理ヲ通曉スルハ、實ニ容易ニアラサルナリ、故ニ今細ニコレヲ説クト雖、蓋小學子弟ノ能ク解スル所ニアラサルヘシ、因リテ惟杉、松、檜ノ三樹ニ就キテ、其ノ大略ヲ述フルノミ、杉ハ、平野ニ宜シカラス、高峰ニ宜シカラス、又砂地及ヒ燥土ニ宜シカラス、諺ニ、杉ハ、谷ニ植ウヘシト云ヘルカ如ク、陰濕ノ土ヲ喜ミ、寒冷ノ氣ニ耐フ、即日向、大隅、紀伊、大和、羽前、羽後ニ産スル所ノ杉ハ、皆此ノ如キ土地ニ生セルモノニシテ、或ハ生長ノ遲速、或ハ材質ノ美惡アリト雖、概シテ

上等ノ材料タリ、又杉ハ、適當ノ土ニアラスト雖、亦能ク生スルモノナリ、東京府下四谷ノ近傍ハ、平野ニシテ、土質乾燥ナリ、杉ニ宜シカラス、然ルニ村々戸々巧ニ杉林ヲ樹テ、十余年ニシテコレヲ伐リ、市ニ輸ス、コレヲ四谷丸太ト云フ、材質固ヨリ下等ナリト雖、亦以テ建築ノ用ニ供スヘシ、此ヲ以テ察スレハ、杉ノ我國ニ於ケルハ、殆樹タサルノ地ナシト云フモ、亦可ナランカ、惟砂地ニハ樹タス、樹ツト雖、以テ材トナシ難シ、松ハ、諺ニ峰ニ植ウヘシト云ヘルカ如ク、高燥ノ

地ニシテ、空氣ノ最能ク流通スル所ヲ喜ミ、砂土
粘土ノ相混セル土質ニ適當セリ、而シテ卑濕ノ
土ニ宜シカラス、畿内諸道、大抵林ヲ樹テサル所
ナシ、其ノ最適當ノ土ト稱スヘキハ、日向、大隅、丹
波、陸前ノ各地方ナリ、古老ノ説ニ、黒松ハ、海濱ニ
宜シ、赤松ハ、山峰ニ宜シト云ヘリ、未タ其ノ果シ
テ、然リヤ否ヲ詳ニセス、

檜ハ、平野ニ宜シカラス、又燥土ニ宜シカラス、砂
土ニ宜シカラス、深山幽谷ノ北陰ニシテ、粘土ト
花剛石ノ相混セル所ヲ宜シトス、即信濃ノ木曾

山、其ノ土ナリ、木曾山ノ高サハ、未タ實測セサレ
トモ、大抵一千尺ニ下タラサルベシ、紀伊、土佐亦
檜ヲ産スト雖、土地海面ヲ抜タコト、高カラサル
ヲ以テ、其ノ質甚劣レリ、三陸兩羽ハ、此ノ樹甚少
ナシ、土人ノヒノキト稱フルハ、羅漢柏ニシテ檜
ニアラス、檜ハ、呼ヒテキソヒト云フ、モシ檜林ヲ
樹ツレハ、必繁茂スル所多カルヘシ、檜ハ、松杉ノ
如ク、各地皆能ク生スルモノニアラス、生スト雖
以テ材トナシ難シ、

○收種説

凡山林ノ樹木ヲ培養スル者、或ハ扞挿ノ法ヲ行ヒ、或ハ壓條ノ法ヲ行フト雖、下種法ノ最良キニ如カサルナリ、而シテ下種ノ法ニ、數條アリ、其ノ中下畦ノ業ハ、普通ノ良法タリ、因リテ今其ノ法ヲ載ス、

杉檜ノ種子ハ、半年ニシテ熟ス、秋季ニ至リテコレヲ收ムヘシ、松ノ種子ハ、一年半ニシテ熟ス、亦秋季ニ至リテ收ムヘシ、收メ歸リテ能ク全粒無病ニシテ、壯満ナルモノヲ擇ヒ、日ニ曝スコト數日ナレハ、鱗砌拵ケテ、種子自墜ツ、而シテコレヲ

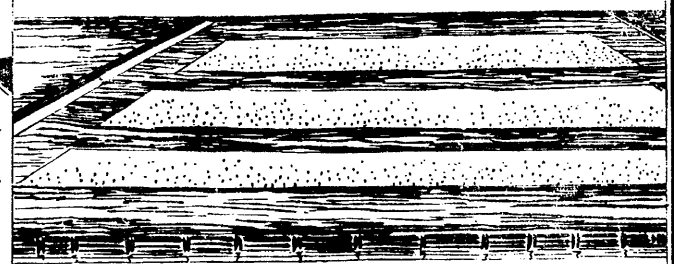
收メテ囊中ニ入レ、空氣ノ能ク流通スル所ニ置キテ、貯フヘシ、又箱中ニ細砂ヲ撒布シ、貯フル法アリ、松ノ種子ハ、此ノ法ヲ行フヲ可トス、秋季ニ收メタル種子ハ、其ノ明年下種ノ候分ニ至リ、必コレヲ下スヘシ、モシ年ヲ隔ツレハ、下スト雖生セス、凡種子ハ、其ノ地方ノ森林ニ就キ、最良ナル母樹ヲ擇ヒテ、收ムヘシ、必シモ遠方ヨリ輸送スルヲ要セス、モシ夫レ種子ナキノ地方ニ於キテハ、檜ハ、信濃、土佐、紀伊ヨリ輸シ、松、杉ハ日向、大隅、丹波、陸前ヨリ輸スヘシ、其ノ輸送ノ際、或ハ種子

ヲ損スルノ患アリ、宜シク注意スヘシ、

○治畦說

夫樹木ヲ養フハ、恰嬰兒ヲ育フカ如シ、父母其ノ愛ニ溺レ、飲食遊戯、一ニ其ノ嗜ム所ニ從ヘハ、或ハ傷ツケ、或ハ病ヲ生ス、樹木ノ幼時ニ當リ、只一ニ肥料ニ飽カシムレハ、移植ノ後、瘦衰レテ健全ナル者甚少ナキナリ、西國ノ士、コレヲ論シテ苗畦ハ、必惡地ニ設クヘシト云ヘリ、理將ニ然ルヘシト雖、斷岸絶壁ノ所、聖土、石灰土ノ所、日光ノ映射最烈レキ所、霜雪ノ樹根ヲ拔ク所、及ヒ過燥、過

第五圖 苗畦



濕ノ所、鳥獸ノ暴害スル所等ハ、種子發生ノ理ナケレハ、決シテ設クヘカラス、凡苗畦ハ、必其ノ樹テント欲スル林畧中ニ就キテ、治ムヘシ、如何トナレハ、樹木土ニ適セサルノ患ナクシテ、且運搬ノ勞少ナキナリ、而シテ其ノ設クヘキ地形ハ、山

腹斜ニ東南ニ下タリテ、朝陽ノ映射スル所ヲ可
トシ、其ノ地質ハ、輕鬆ニシテ燥ナラス、赭色ニシ
テ濕ナラス、少シク細砂ノ混シタル所ヲ可トス、
此ノ如キ土地ヲトシ得タレハ、先ツ雜草ヲ芟リ、
畦界ヲ畫シ、鋤或ハ鍬ヲ以テ、深ク界内ヲ掘リ、後
ニ鍤把ヲ以テ、土塊ヲ碎キ、極メテ精細ナラシム
ヘシ、畦ノ幅ハ、一尺五寸、或ハ二尺ヲ法トシ、其ノ
長サハ、地形ニ從ヒ、意ノ如シ、又畦ト畦ノ間隔ハ、
三尺ヨリ一丈ニ至ルヲ法トス、而シテ界外四周
ニ、溝ヲ鑿ルヘシ、溝ノ深サ五尺、幅一丈、以テ禽獸

昆虫ノ害ヲ防クナリ、モシ夫レ此レ等ノ害ナキ
所ハ、短籬ヲ以テ其ノ四周ヲ圍ミテ、可ナリ、コレ
治畦法ノ大略ナリ、我國從來ノ治畦法ハ、土塊ヲ
碎キ、糞水ヲ澆キ、而シテ種子ヲ撒布ス、種子ノ發
生、萬一ヲ失ハスト雖、上ニ論セル如ク、肥料ニ飽
カシムルノ患アリ、園丁ハ、專此ノ法ヲ行ヒテ可
ナリト雖、山林ヲ樹テント欲スル者ハ、宜シク前
法ヲ行フヘシ、

○下種説

下種ノ候春ニ至レハ、嘗貯ヘタル種子ヲ水中ニ

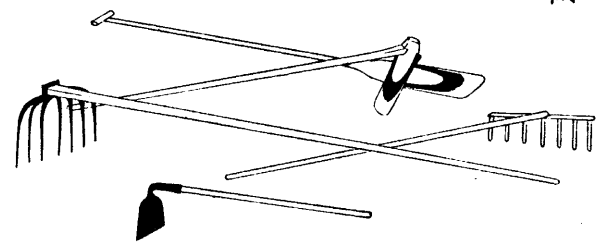
投シ、其ノ沈ミタルヲ採リ、杉檜ノ種子ハ、細小ニシテ、且脂氣多ク、レハ、生機アリト雖、或ハ沈マサルコトアリ、宜シク注意スヘシ、更ニ浸スコト、凡三日、米泔水最苗畦ニ至リ、再ヒ土ヲ堀リ、コレヲ碎キ、木把ヲ以テ凹線ヲ畫シ、種子ヲ撒布シ、土ヲ封スヘシ、杉檜ノ種子ハ、封スル淺キヲ要シ、松ハ、少シク深キヲ要ス、其ノ撒布ノ分量ハ、大抵六尺四方ニ、松ノ種子五勺、杉檜ノ種子三勺ヲ法トス、而シテ畦邊在ル所ノ雜草ヲ芟リ、以テ其ノ上ヲ覆ヒ、太陽ノ照射ヲ防キ、又暴風暴雨ノ害ヲ防クベシ、梅雨ノ候ニ至レハ、種子自發生ス、是レ最簡易

ノ法タリ、モシ種子發生ノ萬全ヲ期セント欲セハ、種子ヲ撒布シ、土ヲ封シ、禾藁ヲ以テ其ノ上ヲ覆フヘシ、俗ニコレヲ衣藁ト云フ、衣藁ハ、能ク種子流散ノ害ヲ防キ、梅雨ノ候ニ至レハ、腐朽シテ肥料トナリ、種子ノ發生、一モ漏スコトナシ、然レトモ或ハ肥料ニ飽カシムルノ患アリ、宜シク注意スベシ、

○假植說

種子發生ノ後ハ、更ニ注意シテ、畦中ノ雜草ヲ拔キ、太陽直射ノ害及ヒ風雨霜雪ノ害ヲ防キ、明年

第六圖
鋤鋤諸器械



三月ニ至リ、其ノ生長ノ
度ニ過キタルモノ、及ヒ
生カノ弱キモノヲ摘除
シ、其ノ次年三月、假植ノ
法ヲ行フヘシ、假植トハ、
何ソヤ、苗木既ニ長シテ
苗畦漸狭ク、空氣ノ流通
宜シカラサルヲ以テ、生
意將ニ衰ヘントス、因リ
テコレヲ他ノ畦ニ移ス

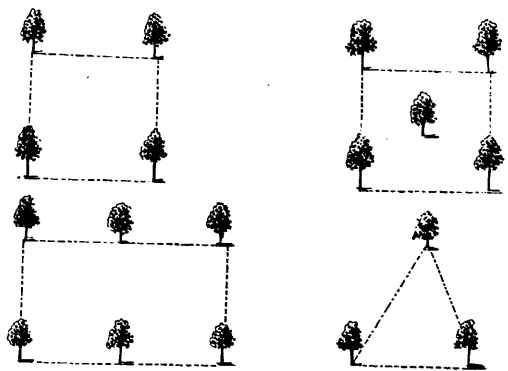
ヲ云フナリ、其ノ畦ヲ作ルノ法ハ、大抵苗畦ヲ作
ルニ同シクシテ、惟其ノ幅ヲ濶クスヘシ、今假ニ
此ノ畦ヲ名ツケテ假畦ト云フ、苗畦ノ傍ニ設ク
ヘシ、凡假植ノ法ハ、先ツ苗畦ノ一方ニ就キ、深ク
坑ヲ穿テ、手ヲ以テ漸次ニ土ヲ崩シ、苗木ヲ取ル
ヘシ、必シモ根土共ニ拿取スルヲ要セス、唯注意
シテ、命根ヲ損セシムルコトナカレ、既ニシテコ
レヲ薫蕪ニ裹ミ、假畦ニ輸ス、而シテ假畦ノ土ヲ
碎キ、平坦ニシ、先ツ小鑿ヲ以テ順次ニ坑ヲ穿ツ
ヘシ、坑ノ距離ハ、大抵四五寸ヲ法トス、次ニ苗木

ヲ坑中ニ入レ、原土ヲ封シ、後ニ少シク水ヲ澆キ
テ滲定セシムベシ、既ニ假植シテ、屢雜草ヲ芟リ、
能ク保護スレハ、其ノ明年長シテ二尺八九寸ヨ
リ三尺ニ至ル、此ニ於キテ始メテ林中ニ移植ス
ベシ、總テ針葉樹ヲ植ウルハ、土ニ入ルコト淺キ
ヲ要スヘシ、其ノ植ウルノ日ハ、晴天ヨリモ陰雨
ノ日ヲ宜シトス、西國ニ於キテハ、秋分ヲ以テ假
植ノ季節トス、春季ニ行フヨリモ、其ノ利多シト
云ヘリ、

○移植説

假植ノ明年四月前條載スル所ト同シキ方法ヲ
以テ、苗木ヲ掘リ、無病健全ノモノヲ擇ヒ、凡五十
株ヲ一束トシ、水ヲ澆キ、濕シタル藁筵ニ裹ミ、其
ノ植ウヘキ所ニ輸送シ、先ツ林中ノ地形ヲ察シ、
荆棘ヲ芟リ、或ハ四角、或ハ稜形、便宜ニ從ヒ、預區
畫ヲ算シ、小鑿ヲ以テ坑ヲ穿ツヘシ、其ノ距離ハ、
大抵三尺ヨリ一丈余ヲ法トス、土味樹木ニ適當
セル所ハ、間隔ヲ
潤クシ適當セサル
所ハ、狭クスベシ、而シテ直ニ苗木ノ命根ヲ安
定シ、鬚根ヲ駢列シ、順次ニ原土ヲ封スベシ、土ヲ
封スルニ、法アリ、上層ノ土ヲ以テ下ヲ埋メ、下層

移植四法



ノ土ヲ以テ上ヲ封スベシ、西國ノ士、苗木ヲ植ウルコトヲ論シテ曰ク、西風烈シキ地ハ、西方ヨリ植エテ土ヲ南ニ封シ、北風烈シキ地ハ、北方ヨリ植エテ土ヲ東ニ封スヘシト、理將ニ然ルベシ、

○洗伐説

移植ノ後、長シテ五六尺

ニ至レハ、樹々密接シテ空氣流通セス、生意漸衰ヘントス、此ニ於キテ洗伐ノ法ヲ行フナリ、其ノ法ハ、生力ノ最強キモノ、及ヒ最弱キモノ、本幹ノ屈曲セルモノ、枝條ノ隣樹ヲ害スルモノ等ヲ擇ヒテ、コレヲ抜キコレヲ伐リ、樹々ノ距離ヲ濶クシ、樹梢ヲシテ平等ナラシムヘシ、此ノ時下拂ト称ヘ、下枝ヲ鋸斷スルノ法アレトモ、枯枝及ヒ隣樹ヲ害スル枝ノ外ハ、決シテ行フヘカラス、斷痕兩水ヲ引キテ、其ノ心ニ沁入シ、遂ニ枯爛ノ病ヲ来タセハナリ、長シテ三丈余ニ至リシ頃、又前ト

同法ヲ以テ樹々ノ距離ヲ濶クシ、自後年々注意シテ枯朽ノ樹、及ヒ風ニ折レ、雪ニ摧ケタル樹ヲ伐リ去ルヘシ、是レ洗伐法ノ大略ナリ、總テ洗伐セシ樹ハ或ハ材木トシ、或ハ薪トシ、或ハ炭トシ、毫モ遺スコトナキヲ要スベシ、

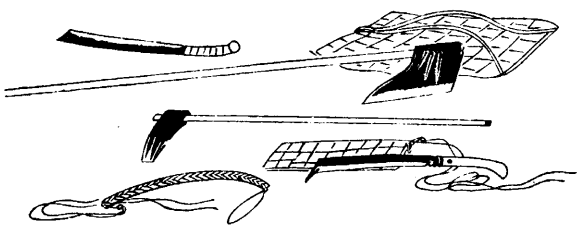
○伐木說

凡樹林ハ、用アリ、利アリ、即コレヲ伐ル、固ヨリ妨ナシト雖、蓋生長ノ極度ヲ俟チテ、コレヲ伐ルノ最良キニ如カサルナリ、生長ノ極度ヲ俟チテ、伐リタル材ハ、其ノ質美ニシテ其ノ價モ亦貴ケレ

ハナリ、其ノ極度ハ、樹々各異ナレトモ、松、杉、檜ハ、大抵百年前後ヲ以テ極度トスヘシ、伐木ノ季節ハ、諺ニ木六月ト稱ヘ、六月ヲ以テ其ノ季節トスレトモ、夏時伐リタル材ハ、腐朽ヲ生シ易ク、又蠹虫ヲ生シ易シ、或ハ夏時伐リテ是レ等ノ傷害ヲ生セサル地方アレトモ、以テ例トナシ難シ、即信濃、飛驒ノ諸山ノ如キ是レナリ、而シテ秋冬ノ候ニ伐リタル材ハ、木理堅縮シテ、腐朽ノ患、蠹虫ノ害ナキナリ、凡伐木ヲ行フニハ、先ツ運搬ノ便否ヲ察シ、費用ノ多寡ヲ算シ、或ハ全材、或ハ方材、其

第八圖

樵夫ノ道具



ノ需用ニ應シ、林中風雪ノ感觸最烈シキ所ヨリ斧ヲ下スベシ、即北風烈シキ地ハ、南ヨリシ、西風烈シキ地ハ、東ヨリスルカ如ク、専門家ハ、尺締一萬本ヲ以テ一川ト稱ヘ、一萬本以上ヲ伐レハ、必利益アルモノトス、蓋一萬本ヲ伐ルモ、一千本ヲ

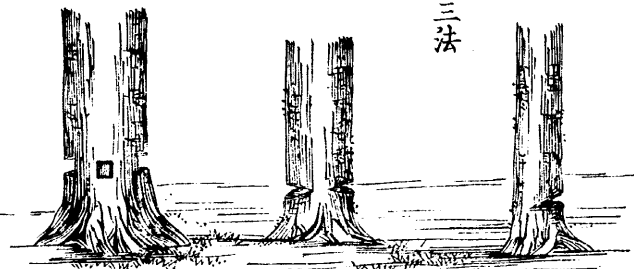
伐ルモ、其ノ費用ニ至リテハ大差ナキナリ、故ニ山林愈大ナレハ其ノ利益愈大ナリ、樹木ヲ伐ルニハ、樵斧及ヒ鋸子ヲ以テス、樹ヲ仆スノ際ハ、必樵斧ヲ用キ、材積ノ減耗ヲ厭ハ、必鋸子ヲ用キルヘシ、然レトモ鋸子ヲ以テ伐リタル材ハ、運搬ノ際、或ハ木心ヲ損ス、故ニ深林ニ於キテハ、專樵斧ノミヲ用キテ斫伐シ、材砧ヲ削リテ、堦巾ヲ製シ、木心ノ損傷ヲ防ク、其ノ材積ノ減耗ハ、實ニ止ムヲ得サルニ出ツルナリ、而シテ、斫伐ノ法ニ、三アリ、一ハ一面ヨリ伐ルナリコレヲ片斫ト云フ、

一ハ兩面ヨリ伐ルナリ、コレヲ兩口ト云フ、一ハ
 三面ヨリ孔ヲ穿テ、恰鼎足ノ如クシテ伐ルナリ、
 コレヲ三花ト云フ、三花ハ、樹ヲ仆スノ際、損傷ヲ
 生スルコト少ナシ、故ニ周圍三尺以上ノ樹ハ、大
 抵此ノ法ヲ行ヒ三尺以下ノモノト雖、必需ノ材
 ハ、皆此ノ法ヲ行ス、片口ハ、今コレヲ行フモノナ
 クシテ、兩口ハ、普通ノ良法タリ、又樹ヲ仆スノ法
 ハ、最危險ノ業タリ、先ツ伐リテ木心ニ至リ、更ニ
 樵斧ヲ以テ其ノ仆サントスル方面ヨリカヲ極
 メテ、コレヲ斫ルナリ、一斧ニシテ即仆ル、仆ルノ

際、深ク注意セサレハ、材
 心ヲ損スヘシ、材心ヲ損
 スルノミニアラス、人命
 ヲ損スヘシ、既ニ仆シテ、
 寸尺ヲ計リ、全材トナシ、
 或ハ方材トナシ、或ハ板
 子トナシテ、コレヲ運搬
 ス、而シテ樹梢及ヒ枝條
 ハ、或ハ薪トシ、或ハ炭ト
 シ、又根趾ヲ堀リテ旧土

第九圖

伐木三法



ヲ封シ、再ヒ植樹ヲ行フニ便ナラシムベシ、是レ
斫伐ノ大略ナリ、抑伐木ハ、樹藝ノ業ト異ナリ、勞
多クシテ且危シ、宜シク樵夫ヲ傭ヒテコレヲ行
フヘシ、樵夫ハ、信濃飛驒ノ人、最其ノ術ニ長セリ、
樵夫一日ノ業ハ、大抵尺締七八本ヲ伐ルヲ常ト
ス、其ノ賃錢ヲ厘代ト稱フ、樵夫携フル所ノ器具
ハ、背負籠イイ、小斧ナ、墨斗ツツ、木尺ヤシ、樵斧ノ、大斧ハ等ナリ、背負籠
ハ、飲食其ノ他雜具ヲ入レ、背ニ負フモノナリ、小
斧ハ、常ニ腰ニ帶ヒテ枝條ヲ斫リ、荆棘ヲ芟ル等
ニ用キルナリ、墨斗、木尺ハ、方材ヲ造クル時ニ用

キルナリ、樵斧ハ、樹ヲ伐ルニ用キ、大斧ハ、方材ヲ
造クリ、堦中ヲ造クルニ用キルナリ、而シテ鋸子
ヲ携ヘス、故ニ運搬便利ノ地ニ於キテモ、或ハ樵
斧ヲ用キテ、材積ノ減耗ヲ顧ミサルコトアリ、林
主タル者宜シク注意スヘシ、總テ山林ハ、用アリ、
利アリト雖、決シテ全林ヲ伐リ盡スコトナカレ、
必區畫ヲ分チ年度ヲ算シ、輪次ニ斫伐スベシ、モ
シ眼前ノ利ニ迷ヒ、全林ヲ伐リ盡クセハ、後年再
ヒ利ヲ收ムルコト能ハサルノミナラス、或ハ土
砂ヲ流シ、或ハ水源ヲ涸ラシ、隨ヒテ耕種ノ地ヲ

害シ、遂ニ專務トスル所ノ農業ヲ妨クルニ至ル、
慎マサルヘケンヤ、美濃尾張及ヒ播磨攝津ノ各
地方ニハ、往々此ノ如キ所アリ、故ニ山林ヲ有ス
ル者ハ、宜シク山林ノ常ニ繁茂シテ、利益ヲ永遠
ニ収ムルコトヲ務ムヘシ、決シテ眼前ノ利ニ迷
フコトナカレ、

○運搬説

夫運搬ノ便不便ハ、材木販賣ノ損益ニ關係スル
コト、極メテ大ナリ、不便ノ地ニ於キテハ、運搬費
ノ多キコト、常ニ材木ノ原價ニ倍セリ、而シテ運

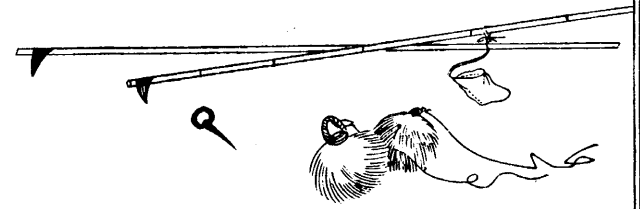
搬ニ、水陸二道アリ、陸運ハ、板子或ハ角材トナシ、
人力及ヒ牛馬ノカヲ以テ、コレヲ輸ス、水運ハ、全
材或ハ角材トナシ、人力及ヒ水カヲ以テ、コレヲ
輸ス、水運ハ、陸運ニ比スレハ、頗便利ニシテ費用
少ナク、且大材ヲ輸送スルコトヲ得ヘシ、然レト
モ材砧巖石ニ觸レテ、木心ヲ損スルノ患アリ、又
河水漲リテ、材木ヲ漂失スルノ患アリ、故ニ材砧
ヲ削リ、兜巾ヲ造リ、巖石ニ觸ル、ヲ防キ、又目止
孔ヲ穿チ、綱ヲ以テ懸崖ヲ下スニ便ニシ、又藤蔓
ヲ以テ、筏ヲ結フニ便ニス、又材量ノ重キモノハ、

浮水ト称へ、輕量ノ材ヲ結束シテ、水ニ浮へ、コレヲ輸ス、杉、檜ハ、最輕量ノ材ニシテ、松ハ、稍重シト雖、亦浮木ヲ用ヰルヲ要セス、凡水運ノ難キハ、溪流及ヒ河水ノ間ニシテ、モシコレヲ海ニ運セハ、損傷漂失ノ患甚少ナシ、我國材木水運ノ業ニ長セルハ、飛驒ノ人ナリ、コレヲ飛驒日傭ト云フ、其ノ業ハ、分チテ二トナス、一ハ山上ノ材木ヲ溪流ニ下タス、是レナリ、一ハ溪流ヨリ河水ヲ下タス、是レナリ、溪流ヲ下タスニハ、纜、臼、筭盤、築、修羅、樋等ノ諸器械アリ、纜ハ、細條ヲ編ミテ、材木ヲ插下

セシムルモノナリ、險巖狹溪ノ形勢ニ随ヒテ製造ス、臼ハ、纜ノ下端ニアリ、材木走リテ此ニ来リ、一轉シテ下ノ纜ニ移ラシムルモノナリ、養柴ト称へ、細條ヲ臼中ニ積ミ、材木ノ走カヲ殺ク、筭盤ハ、溪間懸泉ノ上ニ設ケ、材木ヲ下タスモノナリ、其ノ形、筭盤ノ如シ、梁ハ水ヲ堰クノ具ニシテ、或ハ纜ノ上端ニ設ケテ、水ヲ材木ニ澆キ、或ハ溪流ノ幅ヲ狭クシ、水層ヲ増サシムルモノナリ、其ノ形、魚簍ノ如シ、修羅ハ溪間ノ巖石、及ヒ土砂ノ崩落セシ所ニ設ケ、水ヲ堰キテ材木ヲ通セシムル

モノナリ、モシ水ヲ堰クコト能ハサル時ハ、人力ヲ以テ溪水ヲ汲ミ上クルナリ、一ニ水修羅ト云フ、樋ハ、方材ヲ組ミテ水ヲ堰キ上ケ、材木ヲ高キ所ニ運フノ具ナリ、又溪流ヨリ材木ヲ河水ニ下タスニハ、小椀、鴨椀、登械、搬、擣等ノ諸器械アリ、小椀ハ、一ニ鐵蓋ト云フ、其ノ長サ五尺五寸、幅五尺、方材十二本ヲ結束セシモノナリ、材木巖石ノ間ニ漂滞セル時、コレヲ浮ヘテ材木ヲ流スナリ、鴨椀ハ、其ノ長サ二間、幅三尺五寸、藤蔓ヲ以テ方材五六本ヲ結束セシモノナリ、小椀ト同シク河中

第十圖 日傭ノ道具



ニ漂滞セル材木ヲ流スニ用キルナリ、登械ハ、一ニ矢ト云フ、登械、下械ノ二種アリ、共ニ材木ノ巖間ニ流レ入ルヲ防クノ具ナリ、搬橋ハ、材木ヲ累ネ、一材コトニ外ニ出タシ、遂ニ河中ノ巖石ニ達セシメ、以テ傭夫ヲ往來セシムルモノナリ、而シ

新編 山科言 卷一

テ日傭携フル所ノ器具ハ、鸛砂袋、木廻等ナリ、木廻ハ、懸崖ヨリ材木ヲ下タス時ニ用キルナリ、砂袋ハ、巖石氷結ノ時、コレヲ漫撒シ、身躰ノ滑倒ヲ防クニ用キルナリ、鸛ハ、二種アリ、一ハ其ノ棒ノ長サ七尺五寸、樺及ヒ楸ヲ以テ作クル、溪流ヲ下タス時ニ用キルナリ、一ハ其ノ長サ一丈三尺、竹ヲ以テ作クル、河流ヲ下タス時ニ用キルナリ、夫日傭ノ業ハ、頗危険ニシテ自一専門家ノ業タリ、決シテ常人ノ能クスル所ニアラサルナリ、故ニ材木ヲ運搬スルニハ、必日傭ヲ傭フヘシ、日傭ノ

賃錢ハ、一日十錢ヨリ、二十錢ニ至ル、而シテ食料ハ、傭主コレヲ給ス、日傭既ニ材木ヲ下タシ、河水幅濶クシテ、且深キ所ニ至レハ、コレヲ筏師ニ交付ス、筏師コレヲ結ヒテ筏トナシ、下タシテ海ニ至ル、我國ハ地勢狹長ニシテ、山脈其ノ中央ヲ貫キ、河道縱横、運搬頗便ナリ、因リテ材木モ亦水運ヲ主トスベシ、陸運ハ、材木常ニ損傷シテ、且時日ヲ費スコト多シ、而シテ或ハ意外ノ費用ヲ失フコトアリ、即某林ヲ伐リテ某村ヲ運搬スルニ當リ、某村或ハコレヲ拒ミ、拒マサルモ、道路再修ノ

費ヲ償フ等是レナリ、故ニ新ニ山林ヲ樹ツルモ
ノハ、必先ツ運搬ノ便否ヲ推考シテ、後ニ施行ス
ヘシ、西國ニ於キテハ、林ノ内外、常道路ヲ開キ、運
搬ニ便ニス、コレ惟運搬ノ便ノミニアラス、林界
ヲ分チ、林木ヲ算スルニ便ナリ、空氣ヲ流通セシ
メ、樹木ノ生長ヲ助クルニ便ナリ、林ヲ樹ツル者、
以テ鑿スベシ

○收益説

山林ノ利益ハ、極メテ大ナリ、然レトモ人其ノ利
益ノアル所ヲ知ラサル者多シ、凡山林ノ利益ハ、

分チテ二トナス、一ハ樹ノ本幹ヨリ、生スル所ノ
モノ是レナリ、今假ニ名ツケテ主産ノ利ト云フ、
一ハ枝條樹皮其ノ他雜産ヨリ生スル所ノモノ、
是レナリ、今假ニ名ツケテ副産ノ益ト云フ、副産
ヨリ生スル所ノ利益ハ、大抵主産ノ五分ノ一ニ
シテコレヲ以テ地價、地租、及ヒ收種、治畦ノ諸費
ヲ償フコトヲ得ベシ、主産ヨリ生スル所ノ利益
ハ、土地ト時價トノ差異ニヨリテ、預算シ難シト
雖、今假ニコレヲ言ハシ、凡松、杉、檜ハ、五十年ニシ
テ周圍四尺ニ至リ、百年ニシテ周圍一丈ニ至ル、

今周圍ヲ一丈トシ長サヲ二丈トシテ其ノ尺締
ヲ算スレハ十二本七分三厘五毛ヲ得ヘシ尺締
一本ノ價ハ金五圓ナリ、明治十三年九月ノ概算一町四方ノ
地ニ百年ノ物五十株アリトスレハ其ノ尺締ハ
六百三十六本七分五厘ニシテ其ノ價ハ三千百
八十三圓七十五錢ナリモシコレヲ都會ニ運搬
シテ販賣スレハ其ノ價ハ必コレニ倍スヘシ凡
山林販賣ノ損益ハ西國ノ士紛々コレヲ論スト
雖、遂ニ林中ニ就キ直ニ木商ニ賣ルノ良法ニ如
クコトナシトス如何トナレハ斫伐損傷ノ患ナ

ク又運搬漂失ノ患ナク而シテ販賣ノ際奸商ニ
欺カルノ患ナキナリ、

14

2

104

初學山林書卷上終

初學山林書卷上終

飯島十郎著

初學山林書

下

大日本教育會圖書印			
室	第	乙	70
八	三	670	
二冊	四號	三架	六國

函一第號

十卷三